

コンテナ苗植付現地見学会に参加して

山形森林管理署最上支署

平成25年10月17日山形森林管理署管内において、全国で普及が進められているコンテナ苗を使用した植付現地見学会が行われ、当支署からも7名が参加しました。本来は前日開催予定でしたが台風26号による荒天のため中止、次の日に急遽開催したことも重なって参加者は少なかったものの、今後の再造林コスト削減に向けて有意義な見学会となりました。

尾花沢市にある延沢森林事務所管内国有林1099林班にて、コンテナの中で2年育てた苗（写真①）を使用し植付を行いました。従来の苗木とは形状等大きな違いが見られ、植付作業も大きく変化しました。今までの植付は、唐鍬（とぐわ）で穴掘り・苗木固定・土戻し・踏み固めの工程でしたが、唐鍬に代わってディブルという鉄の



写真①：コンテナ苗（2年生）

棒状のものを使用、足で踏み込み植栽場所に穴を開け（写真②）コンテナ苗を落とし込んで周囲を踏み固めれば植付終了（写真③）と、1本植えるための作業時間が大幅に短縮（一日当たり植栽本数が大きく増加）、さらに肥料を投入することで苗木の成長促進になり、下刈り回数も半減するかもしれないとのことでした。

しかし、コンテナ苗は通常ものより細く、積雪に対応できるのか課題も見えたところです。

今回は、低コスト再造林に向けた技術開発の取組み（植栽作業の効率化・植栽時期の拡大など）でしたが、雪国での課題などを克服しつつ、低コスト造林を確立するための一歩となり、実用化へとつながるものと思われます。



写真②：ディブルにより植付穴を開ける



写真③…踏み固めればOK